

リーダーがフォロワー（消極的な指示待ち人間）を再生産する。リーダー不要論を背景に登場した「インターメディエーター」。さまざまな次元で異なる領域や言語を媒介し、開かれた協働の場から、新たな需要、関係変化、先端表現を創りだす存在です。九段会館テラスにて、第8回フォーラムを開催します。

2024. 11. 10 [日]

Being - Doing - Becoming  
（ある-する-なる——生の三様態）

# Intermediator Forum 2024

# Welcome to Intermediator Forum 2024


## 対話のさざなみ *Collateral Dialogue*

- 命題「教師と上司は、対話ができない」。これは真か偽か。今日の時点においては、かなりの程度、真であると考えています。すると、あらゆる学校は対話の場ではなく、あらゆる企業、あらゆる非営利組織、あらゆる行政機関は対話の場になっていないということであり、いたるところで“若い人たち”の可能性が閉ざされていることを意味します。これで未来を創ることができるのでしょうか。
- くわえて<sup>ファーザー</sup>父親という存在には、教師と上司の面があり、ことによると彼らにとって対話をするには困難さを伴うようです。現代は、職場や地域、世界中で“偽の父”が現れており（トランプなど）、対話の実現はさらに困難を極めるでしょう。つまり教師、上司、<sup>ファーザー</sup>父親は、ときに「反・創造のシステム」として立ちのぼる可能性があるということです。
- だからこそ、この地球上に対話する勢力がいるのであり、対話の場をひらくことは、文明にとっても、地域や家庭にとっても肝要さを増しています。対話がなければ、共通理解も協働作業もなりたらず、互いに変化する Co-learning もなければ、異質なものの相互作用から生まれる Innovations も起きることはありません。要するに、対話とは一過性の Buzz Word ではない。職場や社会をはじめ、人類の課題です。
- ところが、対話の重要性に賛同するひとたちでさえ、実際には対話になっていかない。なぜか。それは人間が白紙の存在ではなく、歴史的、政治的、文化的存在だからです。場における年齢、職階、役割、ジェンダー、学閥、イデオロギー、文化資本の差異などによって、ほうっておくと、相対的に強い立場にある者や、たくみに弱者を装う者が、

“自分の云いたいことを言う”状態になってしまう。つまり、Dialogue のつもりが、一方的な Monologue になっていく。

- そこで対話の成立に向け、寛容さ、学習、傾聴、心的安全性、メタ認知、システム思考、エポケー（断定の中止）など、いろいろの必要性が説かれている。視点はどうあれ、対話とは、ひと言では片づかない事態であることははっきりしているようだ。
- 私自身はどうみたいかという、**Intermediator** によって事態を收拾し、展開したいとおもっている。つまり、対話へと誘う媒介者を置いて、三者間でのやりとりを重視する（<sup>トライアローク</sup>Trialogue）。というのも、私の観方からすると、そもそも世界は三項構造でできていくものだからである。
- 一方ではいわゆる二項対立が激化する時代になり、他方では専門分化と分業がすすんだことで、境界をこえた対話の重要性が、多分野で認識されるようになってきました。二つ以上の文化をまたぎ、「あいだ」から新たな均衡と変化をつくる Intermediators が何をおこない、何をもたらしているのか。それらは世界三項構造の<sup>キーストーン</sup>要石であり、地球文明と身のまわりに、“対話のさざなみ”を拡げる存在です。

第8回目のフォーラムへ、ようこそ。**Intermediator** になるということは、たった一人で一大勢力たりうるということです。

設楽 剛 (Go Shidara, Ph.D.)  プロフィール  
フィロソファー, 慶應義塾大学 博士 [政策・メディア]

## Program 2024. 11. 10

13:15 開場

13:25 オープニング

### 13:30 - 14:10 VisionTalk

対話から対話へ

┃ 設楽 剛（フィロソファーク\*、Intermediator Forum Initiator）

\* いわゆる哲学者のことではない。  
語源に即して、ものがよく観える人のこと

### 14:20 - 15:55 Crosstalk with Intermediators

なぜ、インターメディアエーターが重要なのか

— 3つの領域との対話 —

intermediator  
Certified

┃ 美しい経営へ 星野 晃一郎（株式会社ダクソフト 代表取締役）

50周年をめざす革新的ロングライフ・カンパニー

┃ 美しい社会へ 鈴木 悠平（作家）

排除の原理から漸進的包摂へ：Prison Artsを通じた越境的対話

┃ 美しい島々へ 平田 直大（一般社団法人しまのわ代表）

沖縄を拠点とした集会と地域とひとづくり

\* 「美しい」とは、活動の隅々に対話が息づいていること

┃ Crosstalk：登壇者および全体対話 —会場・リモートを交えて—

### 16:00 - 16:55 Group Study：

「あいだの時代」への準提言

┃ theme “若い人たち”を、どう生かすか

┃ group dialogue ここまでの要点を踏まえて検討・作成

┃ quasi-proposal グループごとの発表

┃ polyphony まとめ（多声的に）

\* “若い人たち”とは、いくつになっても学び続ける  
ことができ、次を創ろうとする人たちのこと

### 17:00 - 18:00 Symposion（対話と懇親の場）

# Intermediator Forum 2024

● 会場：九段会館テラス＋リモート環境

● 主催：設楽剛事務所

● 共催：(株)ダクソフト

● 申込み：intermediator.jp

© SHIDARA & ARCHIPELAGOs